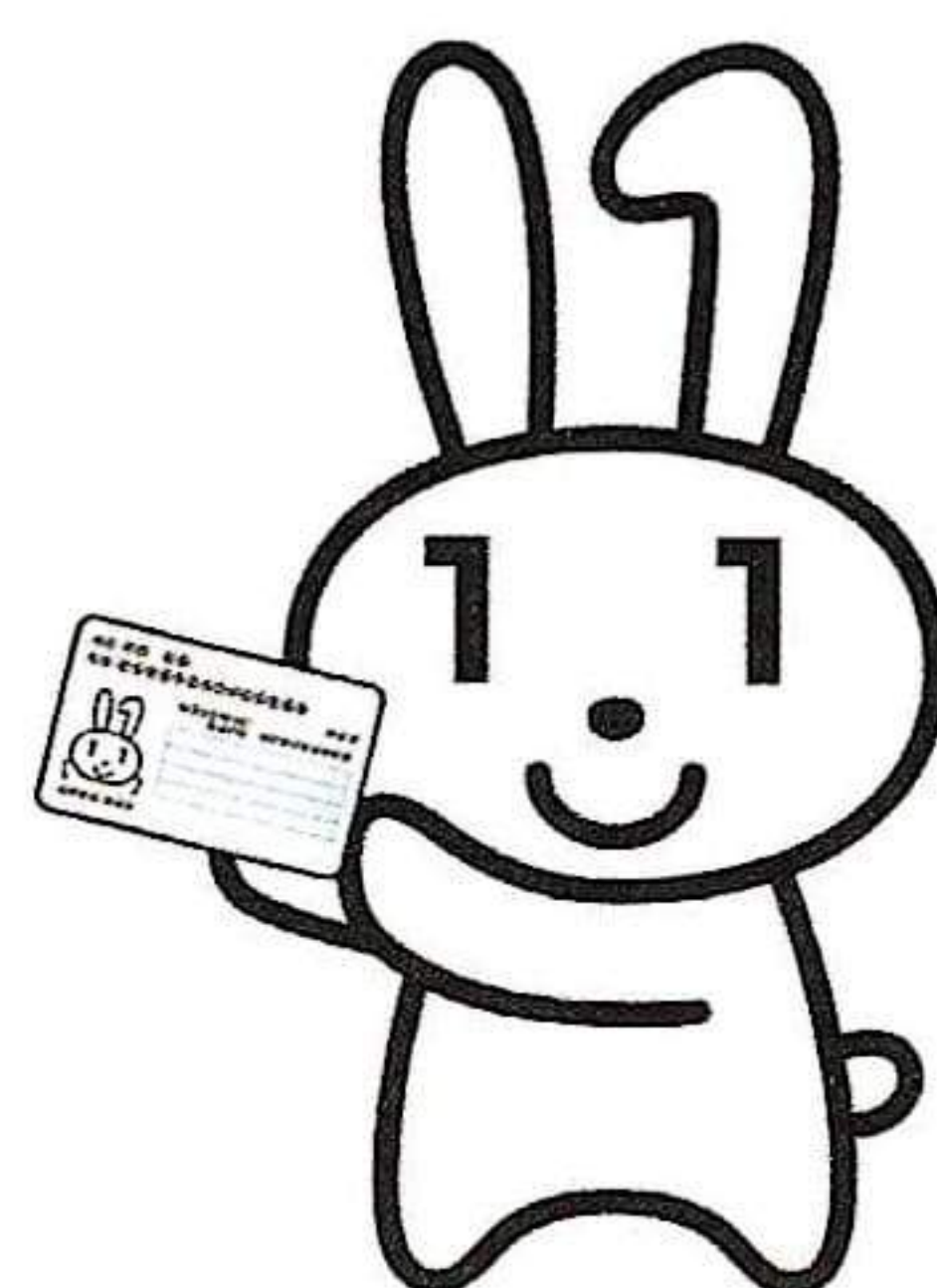


特集

08 疑問も不安も解消！ 医療機関や薬局でマイナンバーカードを 健康保険証として使おう

- 10 PART 1 マイナンバーカードを使う理由
～健康保険証があるのになぜ？～
- 14 PART 2 Q&A
使わない「疑問・不安」に答えます！
- 18 PART 3 医療機関にメリットを聞いてみよう！



INTERVIEW 03 若葉竜也さん (俳優)

特別
INTERVIEW 20 「早くこの子たちを家に帰してあげたい」
現場を見て学んだ思いを胸に

連載 22 〈とびラボ企画〉
対話から始める休み方・働き方
～デンマークの暮らし方

30 〈今月のPICK UP〉

〈人生を広げる Side Business〉
34 中小企業診断士 × 専門学校の講師
など5つの仕事を掛け持ち

36 〈「ひとりじゃない」を知ってほしい 居場所図鑑〉 新連載
高齢者の見守り
「いつでもできる」からこそできない安否確認を
システム化で容易に

38 〈病院ウォーカー ～「病床の機能分化」を知ろう〉 新連載
「高度急性期」機能
緊急性の高い疾患に対し「診療密度が特に高い医療」を提供

40 〈食事にひそむキケン ～おいしく安全に食べるヒント～〉 新連載
有毒植物

42 〈未来のつぼみ〉
公務を担う責任とやりがいを感じながら今後の業務に邁進

43 〈技能の道〉ウェブデザイン 戸田駿太さん

45 〈海外からの便り〉ミャンマー連邦共和国



〈人生を広げる Side Business〉



〈技能の道〉

発行／株式会社日本医療企画
東京都中央区八丁堀3-20-5 S-GATE八丁堀
TEL (代表) 03-3553-2861
TEL (編集部) 03-3553-2864
編集協力／厚生労働省

厚生労働

4 Monthly
2024 April

Top interview
若葉竜也
Ryuya
Wakaba

特別インタビュー
小林虎之介 (俳優)

とびラボ企画
対話から始める
休み方・働き方

特集

疑問も不安も解消！

医療機関や薬局で マイナンバーカードを 健康保険証として使おう

団体概要

特定非営利活動法人
エンリッチ
 代表：紺野功
 設立：2018年9月3日
 所在地：〒133-0051
 東京都江戸川区北小岩2-18-16
 TEL：050-3702-5355
 URL：https://www.enrich.tokyo/

利用者の声

60代男性

近所に娘がいますが、毎日連絡を取っているわけでもありませんし、用事がなければ数週間連絡することもあります。自宅で大不慮の孤独死をした場合、できるだけ早く処理をしてほしいというのが本音です。こちらを利用して、3日というのがいかに短いかと感じています。今後ともお世話になります。

50代女性

持病を抱え、また、要介護5の全介助、寝たきり、胃ろうをしている母を自宅介護しています。母と2人暮らしです。私に何かあったとき、残された親族に迷惑をかけてしまいますし、私が自宅で急逝してしまうと全く何も出来ない母まで巻き添えにしてしまいます。それが不安なまま日々を送っていましたが、ネットでこちらのことを知り、抱えていた不安の一つが解消できるのではないかと登録しました。

- Q1

エンリッチの名前の由来は？

Enrich your lifeで「人生を豊かに」という意味になります。人間関係の希薄化が進み隣の部屋に誰が住んでいるかもわからず、挨拶すら交わさない今の世の中では皆孤立しています。誰かと「つながる」ことで「ほっ」としたり安心できたり。つながることで豊かな人生になるよう、そんな世の中を取り戻したいという願いから付けた名前です。
- Q2

エンリッチの取り組みは？

つながりサービスは、単なる見守りだけでなく一定の距離間で地域の単身高齢者同士が支え合える現代のコミュニティのカタチを提供しています。
- Q3

今後の目標は？

新しい安否通知システムとつながりサービスを自治体が提供者となり、地域の方が自由に活用することで、より多くの方の安心と人とのつながりを増やしていきたいです。

エンリッチの安否確認



もう一つが「つながりサービス」です。見守りたい人が主体となって、LINEグループに見守りサービスを招待することで利用できます。自動的に定期的な安否確認が送付されるので、グループの参加者は、その安否確認に対してそれぞれが「OK」をタップすることでお互いに無事を確認できます。安否が未確認の場合には、23時間後に未確認者を通知するので、グループ内で個別に連絡をしたり、直接確認に行ったりすることで見守ることが出来ます。

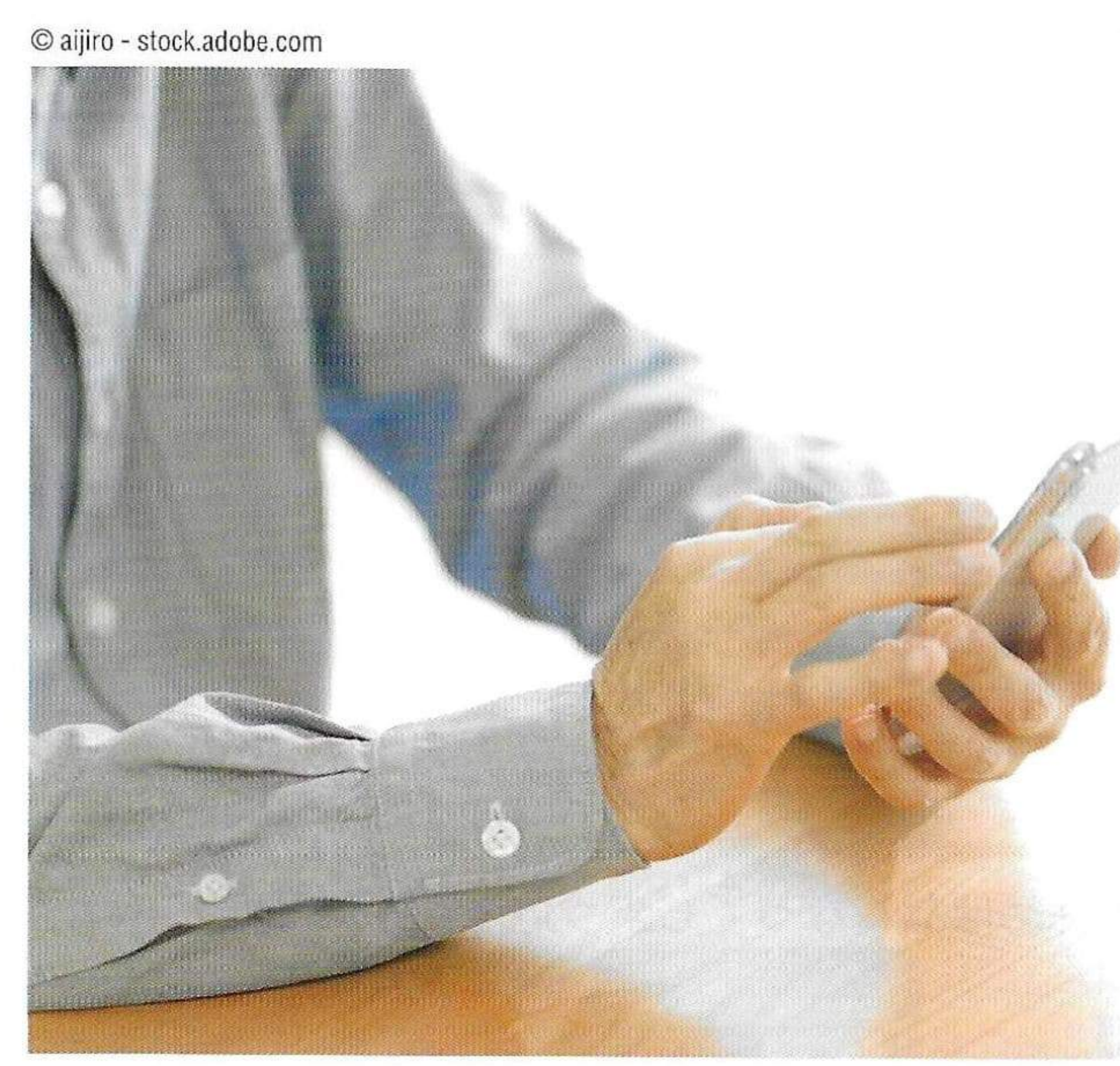
「LINEはもともと、東日本大震災で家族や友人の安否確認

をするために開発されたアプリです。このサービスは災害時だけではなく、日常の『もしも』を早期に発見するために活用できます。サービスを紹介しますと、『そんなの自分たち(家族間・知人間)でできる』という方もいますが、理由を見つけて連絡を取ったりすることは、いつでも誰でもできることだからこそ、案外できないものです。たとえば、家族で見守りのためにグループをつくったとしても、高齢者だとやりとりのスピードについていけず、次第に連絡を見なくなってしまうこともあるようです」と紺野さん。

エンリッチの安否確認であれば、難しい操作は必要なく定期的にくる連絡にボタンをタップするだけで、システマチックにすることで継続でき、ボタン一つで済むようにすることで手間を減らすなど、スマートフォンに不慣れた高齢者でも使いやすくなっています。

「1万人以上が利用してきたこのサービスは、現在バージョンアップし『安否通知システム』として提供を始め、昨年から千葉県我孫子市や栗山町社会福祉協議会などで導入されています。孤独・孤立対策推進法が施行される4月以降は、地域の方々が広く利用できるよう自治体への導入案内を強化していきます」

独居高齢者やひきこもりの人、こどもやワンオペの保護者など——社会や地域、学校、職場などで孤立している人たちは、何かあったときに頼れる人がいない場合があります。そうした人たちを支援する取り組みや団体にスポットを当てます。



「私が『見守り』や『孤独死』を調べる

きつかけは弟の孤独死です。亡くなった当時、弟は51歳で未婚、自宅のマンションで一人で自営業をしていました。私とは年2〜3回連絡を取るくらいの関係で、高齢の母の住む実家は徒歩30分圏内。ある日、仕事の取引先の人が弟と連絡が取れないことを不審に思い訪問してくれたことで発見されましたが、死後約1週間が経過していました。この経験をきっかけに、『もしも』の緊急の場合は、高齢者だけではなく誰にでも起こりうることを強く感じるとともに、できるだけ早く気づいてあげる方法はないかと考えました」

孤独死については、自分とは関係ないことと捉えている人が多いのが現状でしょう。センサーの設置やGPSの活用なども、必要性を認識した人やその

エンリッチが行っている主な事業は2つあります。一つが「見守りサービス」で、登録者に1〜3日ごとの任意の時間を選択してもらって、決められた間隔・時間に安否確認の通知がいきます。利用者は通知に「OK」のボタンをタップすれば、確認終了です。タップされない24時間後に再送され、さらに3時間経過しても確認できないと直接電話。それでも連絡が取れない場合は、近親者へ連絡がいき



「いつでもできる」からこそできない

安否確認をシステム化で容易に

高齢者の見守り

第1回

「もしも」に早く気づくため LINEを活用

独居高齢者の増加や、近隣関係の希薄化などが進む今、自分に「何か」あったときに気づく「誰か」がそばにいないという状況は決して珍しいことではありません。それは高齢者に限らず、40・50代の働き世代にも同様のことが言えるでしょう。そうした問題を解決するため、特定非営利活動法人エンリッチはLINEを活用した見守りサービスを展開しています。

「私が『見守り』や『孤独死』を調べる

お話を伺ったのは

特定非営利活動法人
 エンリッチ
 紺野 功さん

家族にのみ行われていることから、紺野さんは弟さんの出来事をきっかけに、誰でも簡単にストレスなく使えるサービス事業を検討するなかで、LINEを活用することにしたのです。

操作がラクだから 継続しやすい

エンリッチが行っている主な事業は2つあります。一つが「見守りサービス」で、登録者に1〜3日ごとの任意の時間を選択してもらって、決められた間隔・時間に安否確認の通知がいきます。利用者は通知に「OK」のボタンをタップすれば、確認終了です。タップされない24時間後に再送され、さらに3時間経過しても確認できないと直接電話。それでも連絡が取れない場合は、近親者へ連絡がいき